

三鷹市障がい者地域自立支援協議会(令和7年度第3回)議事要旨

日時:令和7年10月30日(木)18時30分~20時15分

場所:教育センター3階 大研修室・オンライン

出席者:

委員(22人)(順不同、敬称略)

片桐朝美、新津健朗、岡田敏弘、福原理絵、高橋みゆき、南雲潤、平松百花、
赤岡かおる、中野弘子、土屋秀雄、大野通子、中野昭精、瀧澤勤、加藤亮一、
豊田未知、海老原恵理子、鶴田明子、山崎智世、渡邊幸治、上野たか子、真坂一穂、
大澤里実

事務局(11人)

鳩根障がい者支援課長、香川障がい者相談支援担当課長、本吉障がい者支援係長、
池田障がい者相談係長、井上障がい者給付係長、他6人

傍聴者:2人

<配布資料>

【資料1】令和7年度第2回協議会後にいただいた実態調査に関するご意見

(IV 調査票のレイアウト等についての意見)

【資料2】生活と福祉についてのアンケート ご協力のお願い(調査票A~F)

【資料3】生活と福祉についてのアンケート(調査票A)

【資料4】生活と福祉についてのアンケート ご協力のお礼とご依頼について

【資料5】三鷹市障がい者地域自立支援協議会へのご意見

【資料6】地域課題の共有・協議について(当事者部会)

【資料6-1】当事者部会委員からの質問「あなたにとってヘルプマークとは?」

アンケート集計結果

【資料6-2】当事者部会委員が回答した「あなたにとってヘルプマークとは」
の資料の感想

参考資料1 三鷹市障がい者地域自立支援協議会委員名簿(グループ分け)

参考資料2 席次表

参考資料3 第3回タイムスケジュール(予定)

参考資料4 三鷹市障がい者地域自立支援協議会への意見シート

参考資料5 専門部会報告書

【当日配布資料】

・三鷹市障がい者地域自立支援協議会就労支援部会 報告会の開催について

・就労支援部会 報告会のチラシ

・みたか住まい探しサポートのご案内

・調布基地跡地福祉施設(障害福祉サービス事業所(短期入所))開設説明会のご案内

・障害者週間イベントのご案内

<議事要旨>

1 報告事項

(1) 令和7年度三鷹市障がい者等の生活と福祉実態調査について

- ・ 事務局

(資料1-4)に基づき説明

(2) 意見シート等でいただいたご意見について

- ・ 事務局

(資料5)に基づき説明

- ・ 会長

ここまで報告事項について、質疑等はあるか。

- ・ A委員

実態調査のお礼状は、今までなかった初めての試みだったと思う。

どの程度の回答があったのか。または、次回説明していただきたい。

- ・ 事務局

具体的な数は確定していないが、お礼状を送付した後でも回答がある。回答数が伸びていると期待する。確定した数については、2月に報告を予定している。

- ・ 会長

A委員の質問に関連して、今年は国勢調査も同時の年である。確認したところ、国勢調査は、10月8日から締め切りであった。締切の段階では、66%の回答率であったようだが、10月27日まで締め切りを延ばしたところ、回答率が81%まで伸びた、15%伸びたことがホームページ上でわかった。そのため、今回の生活と福祉の実態調査の回収率についても大いに期待したい。

2 協議事項

(1) 地域課題の共有・協議について(当事者部会)

- ・ 会長

当事者部会のC委員より発表していただく。

- ・ C委員

(資料6)に基づき発表

以前より当事者部会には席を置かせていただいたが、全体会議には出ていなかつた。今期の途中から三鷹市障がい者地域自立支援協議会に出られるようになった。今日は報告させていただく。

当事者部会の最近の取り組みについて、令和6年10月10日開催の自立支援協議会において、委員の皆様と事務局に向けて、2種類のアンケートの回答をお願いした。ご回答をいただいた委員の皆様、ありがとうございました。

一つ目のアンケートは、当事者部会委員からの質問で、「あなたにとってヘルプマークとは」(資料6-1)という質問をした。

先ほど実態調査の締め切りを延ばした、国勢調査の締め切りを延ばしたという話があったが、「あなたにとってヘルプマークとは」という質問をした際、帰ってきた回答は2件だった。回答が少なく、もう少し回答が来て欲しいなと考えたため、事務局に依頼をし、再度、回答の依頼をしていただいた。その結果、回答が11件まで伸びた。最初の締め切りで回答の集まりが悪くても、もう1回ひと押しをすることで回答が増えるという見本になったと思う。

二つ目のアンケートは、当事者部会員が回答した「あなたにとってヘルプマークとは」という資料の感想を聞いた。このアンケートの回答は、最初0件だった。1件も反応がなかったが、同じように事務局から再度声をかけていただいたところ、5件まで回答が伸びた。どちらにしてもやはりひと手間かけて、もう1回告知をすることは意味があるのかなと思う。

「あなたにとってヘルプマークとは」(資料6-1)というアンケートの質問項目の中に、「公共交通において、席を譲るとしたら誰に譲りますか」という質問をした。「ヘルプマークをつけている人」、「高齢者」、「マタニティマークをつけている人」という選択肢があったが、回答者の意見の中に、「人それぞれの障がいや状態が違うのでこのような質問には回答できません」という回答が来た。この回答は、狙い通りの答えを返してくれたなど感じた。少し具体的に言うと、自分自身も車椅子に乗っているためよく声かけられる。街中で「何かをお手伝いすることはありますか」と声を掛けられ、あえて車いすを押してもらったりする。街中でヘルプマークをつけている人たちに、何かお手伝いしたいなと思っている人はたくさんいると思う。しかし、ヘルプマークをつけているからといって、具体的にその人に対して何をしていいのかは、わからないし、見えにくい。「何かお手伝いすることありますか」と最初に投げかけをして

もらえれば、その後の話は進んでいくのかもしれないが、初めて会った人に声をかけるのは難しいかもしれない。一方、ヘルプマークをついている人からすると、”僕はヘルプマークをついているのに、なんで何も手伝ってくれたり声かけたりしてくれないんだよ、待っているのに”と思う方もいる。

双方の考え方、「人それぞれの障がいや状態が違うのでこのような質問には回答できません」という回答によって、考えさせられることになったと思う。ヘルプマークの意味を理解していただくことがとても重要だと思う。「配慮しましょう」というメッセージ見かけるが、ヘルプマークをついている側からも「こういうお手伝いをして欲しいんだ」という発信をする必要があることがわかった。

実態調査、国勢調査も同じだが、アンケートに答えるには時間がかかる。”自分1人が返さなくてもそんなに世の中変わらないんじゃないか”と思う方もいると思うが、届いたものにはなるべく応えたい。また、自分たちの困り事を伝えられたらいいと思う。

今の当事者部会は、昼と夜にわかれて会場に集まったり、Zoomで行ったりと、色々な人が参加できるように工夫している。参加者は、知的障がいの方、精神障がいの方、難病の方、色々な方が参加している。福祉施設の職員の方も一緒に参加してくれており、参加者の中には、一般企業で働いてるようなメンバーもいれば、福祉的就労をしているようなメンバーもいる。また、当事者部会の運営を全部当事者ができるわけではないため、進行や記録など細かいところは、別の方にご協力をいただいて、一緒に運営している。

今まで当事者部会の中で話してきたことや防災のこと、避難所のことを話したかったが、時間がないようなのでこの後のグループに分かれてからの話をしたい。各グループに当事者の方が1名ずつ入っているため、まず当事者の方の話を聞くことを意識してほしい。普通の話し合いであると、当事者の人たちはだまって聞いているだけのような会議になってしまふことが多いが、当事者の人たちも色々な意見を持っている。当事者部会の中で「こんな意見を発言している」ということを聞いていただければ、質問していただいても構わない。当事者の人たちが喋りやすい環境を作っていただけるように協力していただければと思う。話そうと思っていたことをついぶん割愛してしまうことにはなるが、この後の議論の方が大事だと思うため、発表を終わらせていただく。もし必要であれば、私が今日全部読もうと思っていたものを

市の方に改めて出すこともできると思う。よろしくお願ひしたい。ありがとうございました。

- ・ 会長

防災や避難所についての話をしてもらえると良いかと思う。

それでは、当事者部会の発表を受け、グループで自由に意見交換をお願いしたい。時間は 30 分とする。

(グループごとに意見交換)

- ・ 会長

各グループでの意見交換を踏まえて、全体で意見や感想、質問等をお願いしたい。

- ・ グループ A D 委員

E 委員の話をじっくり聞いた。障がいによって困り感が違う。困りごとが起こった時に、安心して過ごせる場所として、自宅で避難できる準備はしていると思う。そこから避難しなければいけない時、一般の避難所から受け入れてもらえるのか、備蓄がなくなったときに誰が繋げてくれるのかが心配ということが聞かれた。日常生活でそれぞれの困りごとにはどんなことがあるのか知ってもらい、自助だけでなく共助があれば良い、公助は最後になってしまうという話が出た。

- ・ グループ B F 委員

(参考資料5-2)の当事者部会に2人参加していた。東日本大震災の時どうしたかを聞いた。お1人は会社にいて、6時間かけて自宅に帰り、(参考資料5-2 p.3)のような苦労をしたとのこと。今なら、「どのような行動をされますか」と伺ったところ、会社の方とコミュニケーションをとるとの回答だった。コミュニケーションのための簡単な手話やピクトグラム、筆談の用具などを会社の方と相談して作ったとのことだった。しかし、道具などを準備したが、実際に有効に使えるかどうかは心配があるとのこと。

もうお1人も、ご自宅でご家族と一緒に、懐中電灯、防災用のリュック、水を用意しているとのことだった。また、ペット(猫と亀)を飼われているため、水が多めに必要ではと考えているとのことだった。東日本大震災の際は、図書館におり、すぐに家に

帰れたが、ご家族が帰ってくるのが遅く、不安だったとのこと。また、ガラケーだったため、地図を購入してご自宅に帰られたとのこと。今はタブレットがあるとのこと。(資料5-2)からもモバイルバッテリーなど皆さん色々なものを用意していると改めてわかった。

- ・ グループD A委員

視覚障がいの当事者委員のG委員からお話を伺った。

私が先日の当事者部会の進行等をしたため、当事者部会で伺った内容に沿って伺つた。

「どのようなものを準備しているか」を伺ったところ、皆さんが一般的に持っているものも準備しているが、盲導犬の食べ物や、外に出た際のガラス等を踏む危険性を考え、盲導犬用の靴も準備しているとのことだった。また、白杖を持っていくとのことだった。加えて、今までの事例から、情報は掲示されてるもの非常に多いため、視覚障がいの方には非常に情報収集が難しいということで、ボイスレコーダー等も準備しているとのことだった。しかし、最近はスマホにレコーダー機能がついているため、スマホを持っていこうと思うという話を伺うことができた。

東日本大震災の際は、職場にいたとのこと。お子様がいらっしゃり、仕事場も遠くはなかったが、3時間半ほどかけて歩いて帰ったとのことだった。携帯も当時ほとんど使えない状態であり、「無事」という連絡は伝えられたが、その他一切連絡がなく帰ったとのこと。後日、Twitter(現X)が有効な手段と伺い、登録はしたこと。

一時避難所への不安に関して、自宅の崩壊がなければ、家に居ようということを家族間でお話をされているとのこと。理由としては、日常とは異なった環境へのストレスを考えると、慣れている空間の方が安心だからとのこと。東京都の方針で盲導犬の同伴は許可されているが、アレルギーのある方や動物が苦手な方もいると考えると、行きにくいとのこと。

避難の仕方について、一般的の方と一緒に避難するか、それとも障がいの種類に分けて避難した方が良いかも伺った。個人的な見解としては、障がいごとにわかれた方がいいのかもしれないとのことだった。しかし、「障がい」というだけの枠であると、障がいのある者同士でのトラブルもゼロではないため、同じ障がいのある方同士の方が気持ち的には楽とのことだった。また、このような避難訓練等もあると良いと思うとのことだった。

また、特別支援学校の先生から、夜間の避難訓練を過去には行っていたと伺った。G 委員もご興味を持たれていた。夜の学校と昼の学校では、子どもたちの生活が変わるために、違った一面を見ることができたと伺った。

C 委員から、避難所に対する不安な気持ちを伺った。市の方からヒアリングをもらっているが、どうなるかまだわからず不安、というような話と併せて、トイレ問題が課題として大きいと伺った。どうしても時間がかかる中で、一般の避難所の中で、実際にトイレをスムーズに使うことができるのだろうかという気持ち。「多目的トイレ」、「誰でもトイレ」という表記になったことで、優先的に使えるかみたいな気持ち的な不安も伺った。それぞれの参加者の方からも、災害時のトイレはすごく課題が多いため、どのような準備をしているか、今後どういった対応が必要かという話も出した。その中で、普段からの顔の見える関係性、一緒に訓練を行い、課題を共有し、どのように解決していくのか、解決を目指すということが大事なのではないか。また、C 委員の「誰でも利用できる避難所であってほしい、そういうことが実現するような避難所作りを関係者で一緒に考えていけると良い。」という言葉が印象に残った。

- ・ 会長

発表した当事者部会の C 委員から何か意見はあるか。

- ・ C 委員

A 委員にも協力していただいて原稿を作った。3分の1くらいが発表できず終わってしまったが、防災について、当事者の話を聞いてあげてほしいと依頼したことが達成できたと考える。こういう場がどこかでまた作れたら良いと思う。

3 その他

(1) 各専門部会からの報告・共有等

- ・ 会長

各専門部会から報告はあるか。次回の協議会が2月と少し先になるため、部会の直近の会議の報告に加えて、2月までの予定などを共有していただきたい。また、今年度は3年間の任期の最終年となるため、今期のまとめに向けた各部会の活動予定などがあれば、共有していただきたい。

- ・ 相談支援部会 H 委員

毎年事例検討会をしている。10月17日に第1回目を開催した。今年度2回同じ内容で行う予定。2018年から行っており、「切れ目のない支援」について、最初は障がいと高齢の支援者で行っていた。ここ数年は、子ども、障がい、高齢で行っている。保健所、地域包括支援センター、市役所、事業所等多分野にわたって参加してもらっている。1回目は51人、2回目も同数程を予想している。(参考資料5-1)の2「内容」(2)情報提供について、こども家庭センターと地域福祉コーディネーターから情報提供があった。子ども家庭支援センターは家族支援に対応するセンター。児童福祉や福祉と母子保健の一体化という点で頼っていきたい。地域福祉コーディネーターも切れ目の潤滑油として頼りにしたい。こうした方から事例を貰い、検討会を行った。良い話し合いができたと思う。重層的支援体制の重要性、情報共有ツールの活用等が地域課題として挙がってきてている。次回は2月5日に開催する。12月には企画会を行う。

- ・ 生活支援部会 F 委員

7月に自立支援協議会の発表があった。お疲れさまということで懇親会も実施した。今年度は色々な活動を知る、知つてもらうことをいかに具体化するかをテーマにしている。今後は、映画上映会でのアンケートを実施予定。「知る」という点では、2月に実態調査の速報がでるため、課題点を整理して、次期の部会に引き継いでいく。「知つてもらう」という点では、嘆願や意見書を形作っていきたい。案としては、移動支援事業が挙げられる。武蔵野市の移動支援事業は単価が高いため、どのような意図があり高いのかなど、比較をして三鷹市にも訴えていきたい。また、長年自立支援協議会の委員をしている方から、入所施設の利用者の方も移動支援事業を使えるようにしてほしいという意見もある。意見書のような形で訴えていきたい。緊急時の対応として、急に親が亡くなった際など受け入れてくれるところは限られている。検索したところ、杉並区は24時間サポートがあるとのこと。三鷹市も一時保護を行っているが、24時間サポートの検討なども取り入れて意見書にまとめたい。

- ・ 当事者部会 C 委員

今日の発表に向かって活動していた。防災について引き続きしていく。また、お金の使い方について話そうという声もある。それぞれ様々な困りごとを持っていると

考えられるため、様々な障がいの方の困りごとを当事者部会の中だけで話すのではなく、自立支援協議会の皆さんに意見を求めるのも良いかと思う。

- ・ 就労支援部会 I 委員

報告会についての告知。「三鷹の就労」というチラシ(当日配布)を配布している。令和8年1月27日(火)午後3時30分から教育センター3階で行う。今回のテーマは「三鷹の就労～地元企業と福祉事業所の出会いと協働～」をテーマに行う。就労支援部会のこれまでの取組の紹介に加え、地元企業と福祉事業所との連携を取り上げることで、短時間勤務、短時間就労という柔軟な働き方を通じた雇用の創出を目指している。地域の現状や就労の可能性などを考える機会だと考える。ぜひ来てほしい。また、中心となって活動していただいた J 委員から経緯や展望をお話いただきたい。

- ・ 就労支援部会 J 委員

短時間雇用ワーキングチームの中心となって進めてきた。きっかけとしては、三鷹市内の企業は障がい者雇用という枠にはまらない小さな企業が多いが、人手が足りていない企業はあるのではないかという思いと、市内の障がいのある方が地元で小さな仕事をしたいという思いを持っているという声が上がっていたため、マッチングをできないかという思いから始めた。商工会にアンケートをとり、4社声を掛けた。2社は雇用がスタートしている。1社は雇用に繋がりそうということで進めている。福祉事業所は、就労継続 B 型の 3 法人 3 事業所に協力していただいている。マッチングするにあたり、ツール等を作成したため、報告会に向けその過程の発表原稿を作っている。企業の方にも来ていただき、障がいのある方と一緒に働いてみての感想を聞く予定。狙いとしては、企業の方との出会いを見つけること、三鷹市内の福祉事業所中から小さな就労に挑戦したいという当事者の方を発掘することが挙げられる。現在は企業と福祉事業所が業務委託の形で行っているが、今後の展望は、企業と障がいのある方が直接雇用できるよう進めていきたい。

- ・ 会長

最後に、イベントの告知や宣伝等の連絡事項について、委員の皆様から何かあるか。

- ・ K 委員

11月15日～26日までデフリンピックが開催される。耳の聞こえない人のためのオリンピックであり、応援してほしい。サインエールという応援方法がある。聞こえない人にも伝わる。デフリンピックをPRするキャラバンカーが日本全国で2台走っており、そのうちの1台が11月3日に三鷹市に来る。元気創造プラザでイベントを行う。1部は、キャラバンカーと一緒に記念撮影をするイベント。2部は別の市に行ってしまうキャラバンカーの見送りと手話体験を行う。メッセージを書いてもらうことを企画しているのでぜひ来てほしい。また、デフリンピックのポスターがJR中央線のラッピング車両になっている。山手線、京浜東北線でも行っている。見かけたら応援してほしい。

- ・ B委員

特定非営利活動団体 Mitaka みんなの防災の理事をしている。3月20日に防災フェスタを予定しており、当事者部会のパネルを展示する。参加してほしい。3つお知らせがある。1つ目は心彩(ここいろ)というアート作品の販売サイトを立ち上げた。みんなに見てもらい、買いたい人がいれば買っていただける機会となっている。巣立ち会だけでなく、他の事業所も参加している。興味がある人がいれば声をかけてほしい。2つ目は12月20日にクリスマスパーティーを予定している。ネイルやヘアアレンジのプレゼントも行う予定。ボランティア大募集中。3つ目は、11月22日に東京都立小児総合医療センターの長沢先生という方を招いて講演会を行う。

- ・ A委員

アール・ブリュットみたかについて。昨年度よりも開催日数が1日多かった分、入場者数も昨年度より多く来ていただけた。アンケートの集計は終わっていないが、良い感想があったと聞いている。みたかコレクションも行った。回答が多くうれしい悲鳴。

- ・ L委員

東京都の自立支援協議会セミナーのチラシについて。講師を昔から知っている。率直な方で話が面白い。オンデマンドでも見られるのでぜひ見てほしい。
障害者週間について。「ゆめパの時間」というドキュメンタリー映画を上映する。アフター・トークで三鷹の事例を共有できればと思う。

11月18日に第3回居住支援連絡会を行う。グループホームと入所施設が集まつた会。生活を支援している人たちの状況の理解、共有を行えればと思う。

- ・ M委員

アール・ブリュットみたかについて。みたかコレクションについて、1つだけ作品を選んでとあった。個人的な意見だが、3つくらい選ばせてほしい。1つになかなか選べなかった。

- ・ 事務局

みたか住まい探しサポートの開始について

調布基地跡地福祉施設(障害福祉サービス事業所(短期入所))開設説明会について

三鷹市障がい福祉サービス事業所等職員永年勤続表彰について

障害者週間イベントについて

手話の日について

- ・ 会長

予定していた議事は終了した。追加でご意見などがあれば、意見シートなどで事務局まで提出してほしい。

これをもって、第3回自立支援協議会を閉会する。